

防衛力の変革の方向性

宇宙領域

令和 8 年 4 月
防 衛 省

宇宙領域における防衛能力について



安全保障における宇宙利用

【軍民における宇宙利用の拡大】

- ◆ 宇宙空間の利用は、通信、観測、測位等の面で **国民生活の基盤そのもの**
- ◆ 安全保障面でも、陸海空を含むオールドメインの **軍事作戦上の指揮統制・情報収集基盤の中核**（衛星からの画像収集や通信衛星の利用）
- ◆ **各国においても軍事作戦における宇宙依存**は極めて高く、衛星の機数増加や能力強化に注力

【宇宙におけるリスクと脅威の拡大】

- ◆ 一部の国家は**軍事優勢を確保するため、他国の衛星を妨害・無力化する動きを活発化**
 - ✓ キラー衛星に資する技術開発や DA-ASAT（直接上昇型対衛星）ミサイルの開発・実験

軍事衛星等の増加

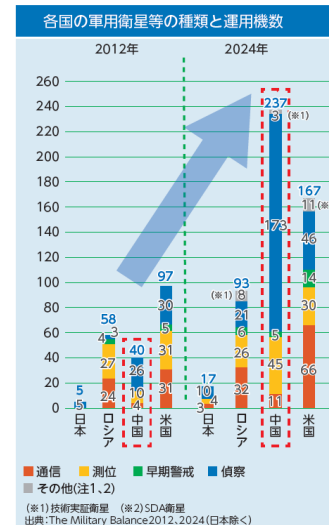
- ◆ 昨今は、中国の増加が顕著であり、2012年からの12年間で約6倍に急増

宇宙ゴミ等の増加

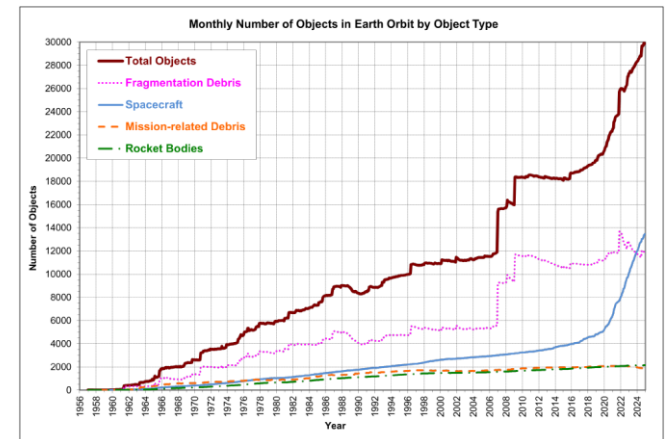
- ◆ NASA把握デブリ数：30,000個超（約10cm以上）

人工衛星の破壊実験

- ◆ 2007年中国が人工衛星破壊実験を実施。2021年ロシアも破壊実験



各国の軍事衛星等の種類と運用機数
(令和7年版防衛白書)



地球周回軌道上の物体数の推移 (NASA)

「宇宙領域における防衛能力」とは

宇宙空間における脅威とリスクが拡大する中、国民生活の基盤及び自衛隊の作戦の中核たる宇宙利用をいかなる状況においても確保していく必要

宇宙領域における防衛能力

「宇宙領域防衛指針」で示している、宇宙領域における防衛能力強化の方向性



1

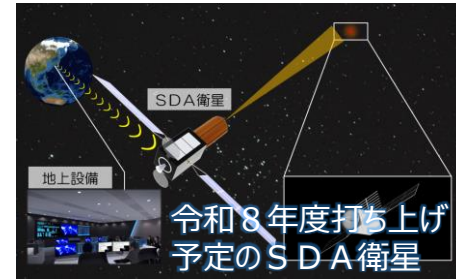
迅速かつ的確な戦況把握

- ✓ 「スタンド・オフ防衛能力」の実効性確保のための移動目標のリアルタイム探知・追尾
- ✓ 滑空段階における極超音速滑空兵器（HGV）のリアルタイム探知・追尾
- ✓ 我が国周辺の動態情報や戦況のリアルタイム把握

2

作戦の基盤となる衛星通信の確保

- ✓ 成層圏、地球低軌道から静止軌道に至る多層的で抗たん性の高い通信ネットワークの構築
- ✓ 増大する通信所要に対応する能力の整備



3

機能保証

- ✓ 宇宙領域把握（SDA）能力をさらに強化しつつ、衛星の防護に必要な能力も構築
- ✓ 宇宙システム全体の抗たん性を強化しつつ、機能損失した場合の即応的な補完体制の構築も検討

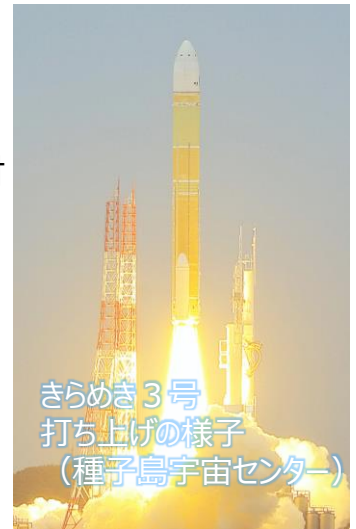
4

相手方の指揮統制・情報通信等の妨げ

5

施策を下支えする総合的な取組

- ✓ 宇宙領域に係る組織体制・人的基盤強化、同盟国・同志国との連携強化



「宇宙領域における防衛能力強化」における基本的な考え方

- 我が国の宇宙の安定的利用が阻害された場合、特に I S R T※1や通信の分野において相手に圧倒的に劣後する状況となりかねず、防衛省・自衛隊の任務遂行に重大な支障が生じる

将来の自衛隊の戦い方のカギとなる「意思決定の優越」を確保する上で、自衛隊の宇宙の安定的利用を確保することは極めて重要

- 加えて、宇宙利用が阻害された場合、我が国の経済・社会活動が害されるおそれ
- 防衛と経済の好循環を図りやすい領域であり、その特長を最大限活用していく

【達成すべき目標】

- ◆ 自衛隊の宇宙の安定的利用を確保しつつ、社会インフラとしての国民生活の宇宙利用を確保するための体制を構築していく

※1 Intelligence, Surveillance, Reconnaissance and Targeting (情報収集・警戒監視・偵察・ターゲティング)

検討の方向性

- 宇宙領域における防衛能力は、引き続き、防衛力の強化に当たって重視すべき能力であり、次の事項について重点的に検討を進める。

主な 検討事項

- 我が国に優位性がある技術分野に投資し、自衛隊の能力を向上させるとともに、企業の成長を牽引
- 宇宙領域での更なる能力向上と運用協力の両面において、同盟国・同志国と相互に補完し合う体制を構築
- 宇宙領域に関する人材の確保、知識の底上げ
- オールジャパンでの宇宙領域における優位性の確保